



森づくりサポーターニュース

平成26年(2014) 3月20日発行

びわこ地球市民の森(森づくりセンター)

〒524-0102 守山市水保町2727 TEL 077-585-6333 FAX 077-585-6312
メールアドレス moridukuri@ex.biwa.ne.jp URL <http://www.ex.biwa.ne.jp/moridukuri/>

春のサポーター活動

平成26年3月1日(土)に第4回森づくりサポーター活動が行われました。

当日は、心配した雨模様の予報も、活動中は曇りで比較的穏やかな日となりました。

今年度最後の活動ということで、サポーター71名とガールスカウト14名に加え、「森づくり県民講座」受講生20名の参加など例年以上に多くの参加者がありました。

サポーターの皆さんには、「里の森ゾーン」の2008年に苗木が植えられた区域で、間伐の作業をしていただきました。

この区域は、植樹後5年程経過し、その間、特にセンダンの木の生長が良く、これが他の樹種の生長を被圧しかねない様相を呈してきました。そのため、センダンを中心に間伐を行い、間伐後は、林の中がスッキリした状況になり、他の樹種ともども健全な森に生長していくことが期待でき、今後も適正な管理に努めたいと思います。

ここまで大きくなった木を切るのはいかかわいそうとの声も聞かれましたが、間伐は、健全な森の形成をはかる上で大切な管理作業の一環です。

また、林の中でロゼット状の葉の姿で越冬する下草なども見られ、ちょっとした自然観察も出来ました。





ガールスカウトの皆さんは、自然教室「木の芽の観察」～おもしろい顔を探そう！～と題した樹木の冬芽のお話を聞いた後、外に出て人の顔やミッキーみたいな顔などを楽しそうに探しました。

その後、センターに戻り、サポーターやスタッフと一緒にクヌギなどの間伐材に専用ドリルで穴をあけ、木槌を使って小さな穴にシイタケ菌を打ち込む作業を体験していただきました。

作業後は、地球市民の森で出来たシイタケがたっぷり入った“貝だくさんの「森なべ」”をみんなでいただきました。

春の息吹を感じられるこの時期のサポート活動、作業のあとだけに、お腹もすいた頃合いでおかわり続出の楽しいお昼を過ごしました。



樹木の名前 豆知識シリーズ

その11

今回は、「石楠花」(シャクナゲ)のお話です。シャクナゲは「滋賀県の県花」にもなっている常緑の低木(灌木)です。ところで、シャクナゲはこれだ、といえる単一種ではなく、日本で自生するキバナシャクナゲ、ハクサンシャクナゲ、ホンバシャクナゲ、ツクシシャクナゲ(ホンシャクナゲ)などを、一般的に「シャクナゲ」と呼んでいます。

県花に定められているシャクナゲは日野町鎌掛谷に自生するホンシャクナゲ群落(国指定の天然記念物)にちなんで県花にしたとされています。また、「福島県の県花」に定められているシャクナゲは吾妻山系に自生するハクサンシャクナゲ系の八重咲きのネモトシャクナゲです。その他、シャクナゲを町花・村花とする自治体は北海道から九州地方まで多数あります。滋賀県でも大津市との合併前の志賀町が町花としていました。

さて、シャクナゲ類は、世界的にはヒマラヤ地方やチベット、ミャンマー、中国の四川省、雲南省、貴川省などの高地から広がったとされており、ネパール王国の国旗(世界で唯一の「矩形でない国旗」)の色はシャクナゲの真紅の色になっています。

もともと高地を分布域としてきたこともあって非常にデリケートな植物といわれ、気候条件の変化に伴って様々に種を分化させた植物で、世界的には1000種とも1500種とも言われるシャクナゲの仲間があるようです。

同じ属のツツジ類も常緑性と落葉性、さらには雄薬(おしべ)の数でアザレア属(Azalea)とロドデンドロン属(Rhododendron)に分けていた時代(「リンネ」による植物分類の時代)もあったようですが、ツツジとシャクナゲの区別はあまり明確ではないようで、現在ではロドデンドロン属に統一されています。強いて言えば、シャクナゲは、空中湿度が高くて、かつ夏季の気温の低い場所にもみ自生しているようです。なお、シャクナゲの学名Rhododendron(ロドデンドロン)はrhodon(バラの意)+dendron(木の意)に由来し、本属のある種の色にちなむともいわれています。

そのシャクナゲは、日本でも高山性のところで自生しているものが多く、それをそのまま一般の庭園や公園に移植しても生育は良くないし、花の色合いもいまひとつのようです。加えて日本では、シャクナゲは深山に咲くその神秘性から一種の「忌木」(土俗的な信仰もあったとか)や「神霊が宿る木」として、一般の庭園に持ち込む事が敬遠されたこともあって、園芸化が遅れた原因の一つにもなったようです。花言葉も「威厳、荘厳、荘重、警戒心」など、花にしては珍しく近づきたい印

象の花言葉がつけられています。また、日本では憧れの人を称して「高嶺(たかね)の花」と呼ぶことがありますね。要するに手の届かない存在のことを



いうのですが、実はこのシャクナゲの花のことを指しています。シャクナゲが高山性植物で、日常生活の範囲には育たない植物だったからでしょう。

ところが、ヨーロッパでは中国やヒマラヤから沢山の原種を持ち帰って、さまざまな交配が行われました。現在では、数百種といわれる園芸品種が流通し、その花が盛んに鑑賞されています。日本に比べ気候条件がシャクナゲの栽培に適していたのでしょう。また、アメリカではワシントン州とウェストヴァージニア州で「州花」に定められています。日本ではそれらを「西洋シャクナゲ」(略して「洋シャク」)と呼んで、日本で自生するシャクナゲと区別しています。その多様な品種栽培の展開については、日本の造園学の創始者として知られる上原敬二の大著「樹木大図説」や、「園芸植物大事典」(「小学館」版)に詳しく述べられていますので、興味のある方は一度、図書館などで目を通していただければいかがでしょうか。

さて、シャクナゲを表記する漢字の「石楠花」ですが、中国では「石南」と呼ぶそうです。それは石の間に生え陽の当たる南向きの土地を好むことから名付けられたとか。

「石南花」を呉音で読むとシャクナゲとなり、これが転じたのがシャクナゲとされています。一方、漢名の石楠はバラ科のオオカナメモチ(Photinia serrulata)をさし、現代の中国ではツツジ・シャクナゲ類は杜鵑(とけん: 本来はホトトギスの漢名。ホトトギスの鳴くところに咲くという意味からつけられたとのこと)を用いているようです。

俗説には、枝が曲がって高さが一尺にも満たないので「尺ない」から転化したとか、この材の箸を使うと癩が治るためとかいった伝えもあるようですが、当てにはならないようです。

いわれはともかく、バラ(薔薇)が「花木の女王」と呼ばれるのに対して、シャクナゲ(石楠花)は「花木の王」と呼ばれてきました。

ガーデニングを楽しまれている方で、その王を美しく咲かせてみたいと思う方は、肥培や日当たりへの気配り、さらには芽摘みや花後の花がら摘みなどの手間はかかりますが、一度挑戦してみればいかがでしょうか。

(文責: 柳田英俊)

県・都市計画課からのお知らせ

平成26年度から「びわこ地球市民の森」の 維持管理が指定管理者に移行します。

県営都市公園「びわこ地球市民の森」は、平成12年度から県民と行政の協働（パートナーシップ）のもとに自然再生を目指した公園整備を進めてきました。本公園は、国の地球温暖化対策である「平成の森づくり事業」や「自然再生緑地整備事業」としても位置づけられています。

皆さんご存知のとおり本公園は、基盤整備を都市公園事業で行い、森づくりを県民、団体、企業等幅広い参加者による苗木の植樹活動として行っています。

長い時間をかけて昆虫や鳥などの様々な生き物が棲むみどり豊かな森を育てあげ、その過程を通して「自然環境」の推移が観察できる「新しいスタイルの都市公園」を目指して、これまで県が直営で維持管理・運営を行ってきました。

一方、並行して県の経営効率の観点から経費節減の検討も求められています。

平成23年度に行われた「包括外部監査」においては、「びわこ地球市民の森」についても指定管理者制度の導入を検討するよう指摘を受けました。さらに、平成13年に始まった県民等による植樹活動が平成25年度で終了する見込みとなったことや、「ふるさとゾーン」の整備が平成25年度で概成し、公園全体の基盤整備が完了することなど、大きな節目を迎えています。

このため、サポーターの皆さんによるボランティア活動の内容も木を植える活動から、健全な森へ成長させる育樹活動に大きく舵を切る時期となってきています。このような機会を捉えて、県では、これまでのサポーターによる森づくり活動の経験と実績を継承できる形で、平成26年度から指定管理者制度に移行した公園運営をすることとしました。

そこで、平成25年8月に募集を開始し、審査の結果、12月に来年度から5年間（平成26年4月1日～平成31年3月31日）の指定管理者として「シダックス・ハウスビルグループ」を選定しました。

指定管理者には、人・モノ・情報が交流する県民協働の管理運営の場を整えて、これまで以上にフットワークの良い運営を行うよう期待しています。

県としましても、これまで同様、サポーターやボランティアの皆様の声を聴いて、「新しいスタイルの都市公園」の実現を目指しますので、皆様方には、来年度以降も引き続き、「びわこ地球市民の森」を応援いただきますよう、よろしくお願い致します。

[土木交通部都市計画課]

編集後記

当森の管理者が「都市計画課からのお知らせ」のとおり、4月から指定管理者に移行します。このため、森づくりセンターの職員は交代しますが、来年度からはサポーターとして森づくりを支援したいと思っております。

サポーターの皆さん、引き続き森づくりにご協力頂きますようお願いいたします。

H.25 スタッフ一同（那須、馬場、柳田、潤井）